



蕁麻疹(じんましん)



<蕁麻疹(じんましん)とは>

蚊にさされたときのように、皮膚がモコモコ、ポコッと盛り上がり、とてもかゆがります。形も大きさもいろいろで、急にできて、たいてい1時間くらいで消えてしまいます。突然出現して、すぐに消えるのが特徴です。

医学的には、「膨疹、すなわち紅斑を伴う一過性、限局性の皮膚の浮腫が病的に出没する疾患で、多くは痒みを伴う」と定義されます。



<病態>

アレルギー性あるいは非アレルギー性の何らかの機序により皮膚マスト細胞が脱顆粒し、ヒスタミンをはじめとする化学伝達物質が皮膚組織内に放出され、皮膚微小血管の拡張と血漿成分の漏出が起こり、紅斑および局所性浮腫(膨疹)を生じます。さらに知覚神経が刺激されて痒みを生じます。



<病型分類>

蕁麻疹と一口に言っても、以下の通り、いろいろあります。

1.特発性の蕁麻疹:個々の皮疹の出現に関して直接的原因ないし誘因を明らかにし得ないもので、医療機関を訪れる蕁麻疹のなかでは最も頻度が高い。基本的には毎日またはほぼ毎日症状の出没を繰り返す。発症してからの期間が1カ月以内のものを急性蕁麻疹、1カ月以上経過したものを慢性蕁麻疹と呼ぶ。背景因子として感染、食物、疲労、特定の薬剤、日内変動などが関与することが多い。

2.特定刺激ないし負荷により皮疹を誘発することができる蕁麻疹:特定の刺激ないし条件が加わった時に症状が出現するもの

(1)外来抗原によるアレルギー性の蕁麻疹:食物、薬品、植物(天然ゴム製品を含む)、昆虫の毒素などに接触、飲食、吸入、注射などの経路で生体が曝露されることにより起こる。特異的 IgE を介して皮膚マスト細胞が脱顆粒するI型アレルギー反応である。プリックテストやIgE RAST 法により抗原を特定することができる。蕁麻疹で医療機関を受診する者の数%以下。

(2)食物依存性運動誘発アナフィラキシー:小麦やエビなど特定の食物摂取後 2-3 時間以内に運動負荷が加わるにより生じるアナフィラキシー反応で、蕁麻疹などの皮膚症状を伴うことが多い。原因食物はプリックテストや IgE RAST 法により推定することができる。診断の確定のためには食物および運動負荷による誘発テストが必要であるが、その再現性は必ずしも高くない。

(3)外来物質による非アレルギー性の蕁麻疹:アレルギー機序を介さずに蕁麻疹が起きるため、I型アレルギーの検査法では原因物質を特定できない。造影剤の静脈注射、豚肉、サバ、タケノコなどの摂取により生じる蕁麻疹はこの機序によるものが多い。

(4)不耐性(イントレランス)による蕁麻疹:非アレルギー性の蕁麻疹のうち、アスピリンを含む非ステロイド系消炎剤(NSAID)により誘導される蕁麻疹で、他の複数の NSAID、人工食品着色料、防腐剤などの化学物質に対しても過敏性を示すことが多い。

(5)物理性蕁麻疹:皮膚表面の機械性擦過、寒冷曝露、日光照射、温熱負荷、圧迫、水との接触などにより生じる蕁麻疹を総称して物理性蕁麻疹と呼ぶ。刺激の種類により、各々、機械性蕁麻疹、寒冷蕁麻疹、日光蕁麻疹、温熱蕁麻疹、遅延性圧蕁麻疹、水蕁麻疹と呼ぶ。

(6)コリン性蕁麻疹:入浴、運動、精神的緊張など、発汗を生じるような刺激が加わった時に生じる蕁麻疹。痒みを伴うことが多いが、むしろピリピリした感じである。皮疹は出現後数分から2時間程度で消退する。小児および20歳代の若年成人に好発する。

(7)接触蕁麻疹:皮膚、粘膜が特定の物質と接触することにより生じる蕁麻疹。原因物質に曝露後数分ないし数十分以内に症状が出現し、数時間以内に消退する。「(1)外来抗原によるアレルギー性の蕁麻疹」の一部と「(3)外来物質による非アレルギー性の蕁麻疹」の一部が含まれる。

3.特殊な蕁麻疹または蕁麻疹類似疾患

(1)血管性浮腫:皮膚や粘膜の限局した範囲に出現する深部浮腫。顔面とくに口唇や眼瞼に好発する。痒みがないことが多い。第1補体成分の機能不全が関与することがあり、遺伝性のことがある。

(2)蕁麻疹様血管炎:蕁麻疹に似た皮疹を呈するが、皮膚の微小血管の炎症を伴う。皮疹は24時間以上持続し、色素沈着や落屑を残す。検査上、白血球増多、CRP陽性、補体低下などを示す。全身性エリテマトーデスに移行することがある。

(3)振動蕁麻疹:振動という物理的刺激により誘発される蕁麻疹。物理性蕁麻疹と同様であるが、皮膚深部の局所的浮腫である点の特徴。

(4)色素性蕁麻疹のダリエ徴候:皮膚局所に色素沈着を認める。皮疹部を擦過するとその部位に一致して膨疹を生じる。これをダリエ徴候と呼び、色素性蕁麻疹について診断的価値が高い。



<原因検索>

「蕁麻疹の原因を検査してください。」と受診される方がいます。御依頼の主旨は「I型アレルギーの検査をして欲しい。」ということのようです。しかし、蕁麻疹の多くは「1.特発性の蕁麻疹」なので、ほとんどの蕁麻疹で原因を特定することができません。

「I型アレルギーの検査」で原因を特定できる可能性のあるのは「2.の(1)外来抗原によるアレルギー性の蕁麻疹」ですが、このタイプは蕁麻疹全体の数%以下です。このタイプであっても、診断には「I型アレルギーの検査」よりもまず「病歴」や「問診」が重要です。原因を特定できる場合は、「●●を食べた後には蕁麻疹が出現する」というエピソードを繰り返します。食事日誌をつけて、食べた物と蕁麻疹の関係を記録してください。このような記録から「●●が蕁麻疹の原因として可能性が高い」という目星がみついたら、「I型アレルギーの検査」をします。

**蕁麻疹=I型アレルギーではないので、
むやみに「I型アレルギーの検査」をしても意味がありません。**



<治療>

(1)飲み薬:抗アレルギー剤、かゆみ止めの薬を処方します。何度も繰り返してじんましんが出る場合は、飲みくすりを何週間か続けてもらうことがあります。

(2)冷やす:冷タオルやクーラーで体を冷やすと楽になります。

(3)塗り薬は蕁麻疹そのものには効果がありません。



<こんなときはもう一度診察を>

ゼーゼーと息苦しそうなる時、おなかを痛がる時、ぐったりとしている時には再度診察を受けて下さい。